

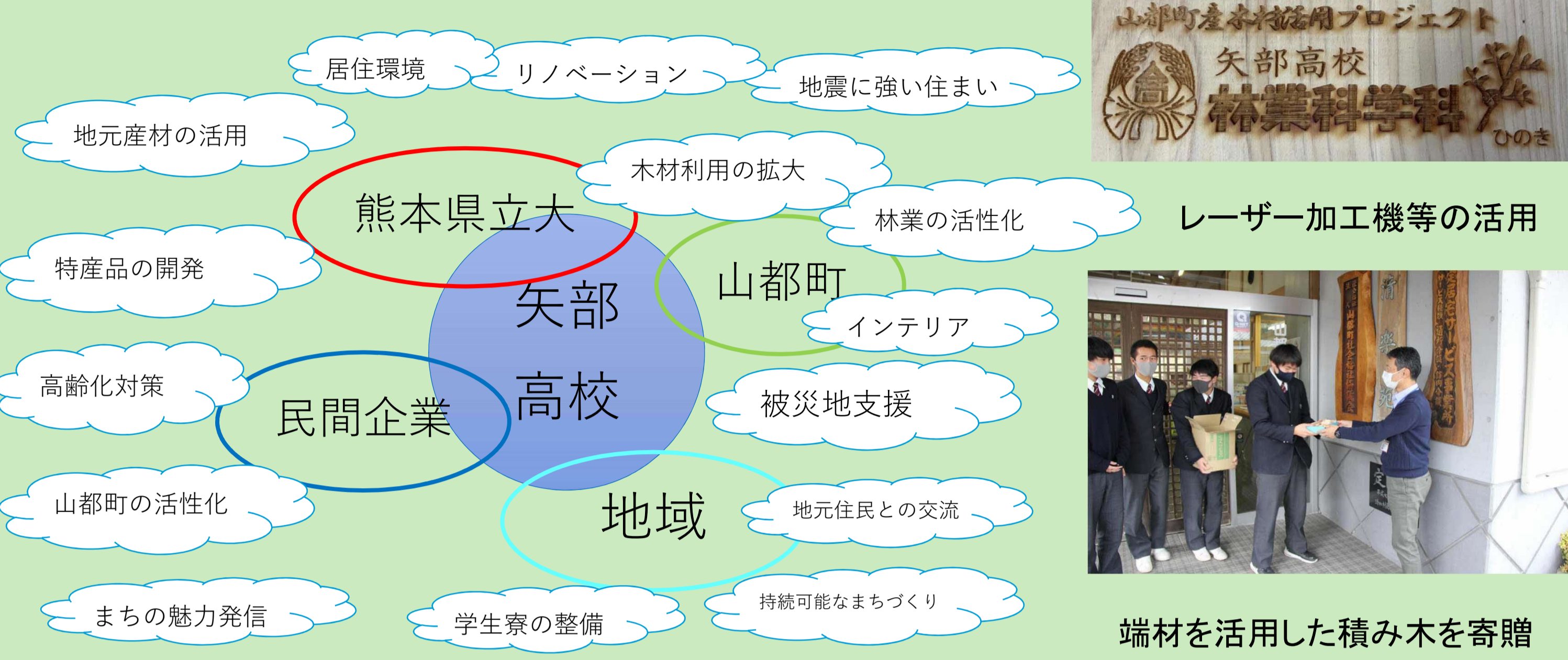
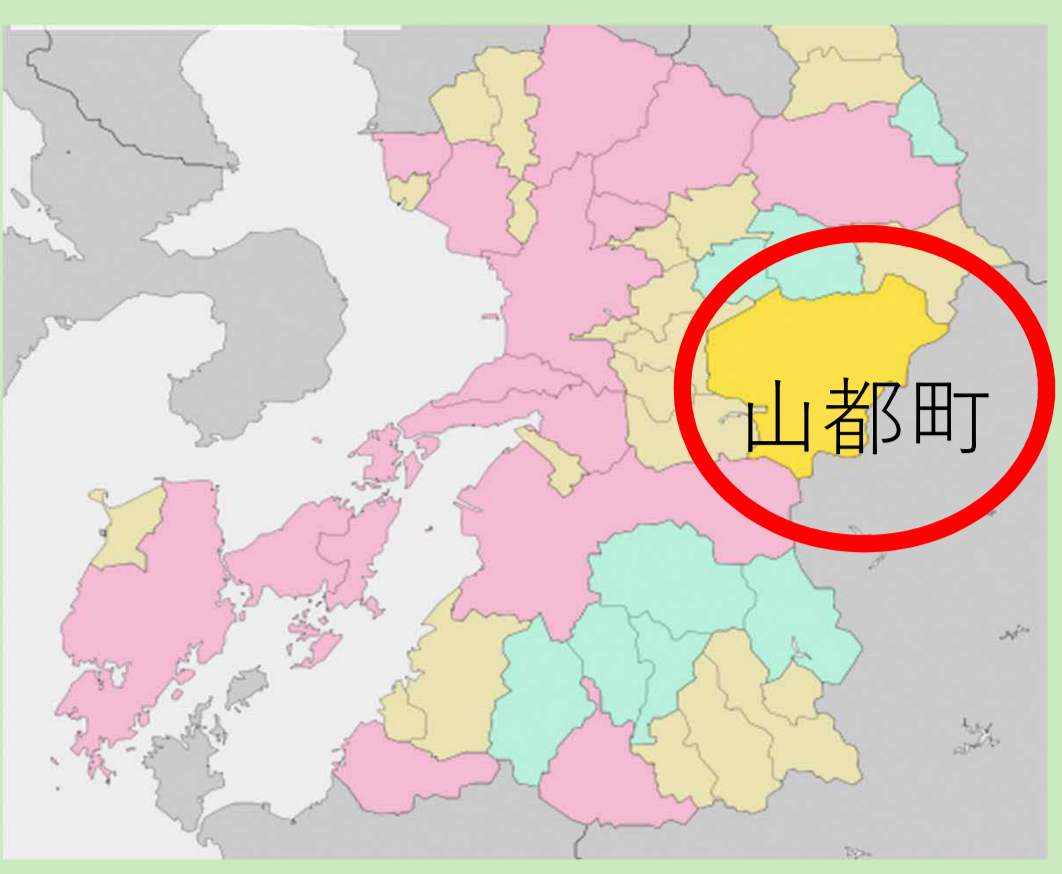


「林業のちから×ふくしの心」

～木づかいですべての人に健康と福祉を～

1 これまでの取り組み

本校が所在する山都町は過疎化、少子高齢化が進む中山間地で、将来消滅する可能性が高い自治体として今後の町の行く末が心配されている。私たち林業科学科では、木材を活用したものづくりを通じて”まちを元気”にするための取り組みを行ってきた。令和3年度に認知症予防パズル「好きっ！通潤パズル」を開発し、町内の福祉施設や地域のサロンに100セット無償配布した。

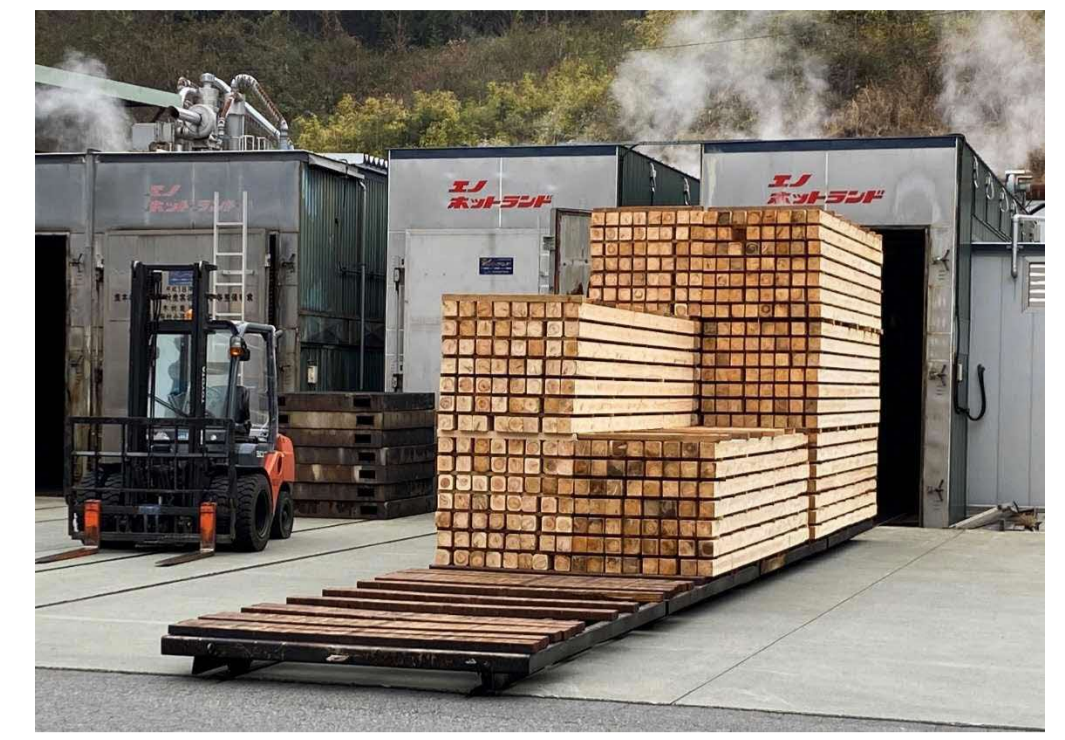


端材を活用した積み木を寄贈

2 研究の目的

林業を学ぶ私たちが、木材を活用して地域や世の中のためになる研究をすることで、元気な山都町、持続可能な山都町を作ることができればと考え、次の仮説に基づき行動することにした。

仮説「**林業で学ぶ知識を生かすことが、町の課題解決につながる**」



町内の製材所と連携した乾燥材の調達

令和3年度に開発した「好きっ！通潤パズル」を中心に高齢化が進む山都町の課題を林業のちからで解決したいと次のような計画を立てて研究を進めた。

- (1) 通潤パズルの製造・販売
- (2) 福祉関連との連携強化
- (3) 木育の実践

<ターゲット>
お年寄りから子供までの幅広い世代



Think globally Act Locally SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

3 研究の内容

(1) 好きっ！通潤パズルの販売

令和3年度に町の社会福祉協議会や(株)Re学と連携して開発した認知症予防パズル「好きっ！通潤パズル」の予約販売を今年度から始めた。令和4年2月1日に社協のホームページを通じて告知し、予約を開始したところ、開始直後から社会福祉協議会の電話やFAXが鳴りやまず、初日で190個の申し込みがあった。1年分の製造数は200セットであり、2日目には1年分の予約がすべて埋まってしまった。注文はほとんどが町内の福祉事業所や地域の代表であり、反響の大きさに大変驚いた。



認知症予防パズル「好きっ！通潤パズル」

(2) パズルの製造

パズルの製造は林業科学科の2、3年生全員で、林産物利用や総合実習等で行っている。製造及び納品の計画は次のとおり、治具を使って効率よく製造することにした。

製造計画 令和5年度 計200個

4～5月	10～11月	12～1月	2～3月
50個	50個	50個	50個

令和4年5月分	令和4年11月分	令和5年1月分	令和5年3月分
個人 1	やすなが 20	白糸第二 8	中島東部 17
JA 5	白糸第二 30	はあとふる 4	個人 1
大地 2	合計 50	藤仙館 2	緑川 15
花上 5		個人 1	個人 1
馬見原中央 8		個人 1	個人 1
松葉会 5	福祉事業所	個人 1	二十日会 3
山の都創造課 2	サロン	個人 1	個人 1
個人 1		個人 2	水曜会 2
個人 1		個人 2	ライフライト 2
ふるさと納税 20		個人 2	ライフライト 6
合計 50		中島東部 26	水曜会 1
		合計 50	合計 50

(3) 品質保持に向けて

製品が完成し仕上げを確認する中で、全員で製造するためには課題があることに気がついた。

(課題1) 製品のバラツキ

治具を使って切断するため、一つ一つのピースの大きさは揃ったが、研磨作業を分担しているため、仕上がりに個人差があることがわかった。そのため、次のような検品票を作り完成した製品の検品を行い、修正を加えたものを箱詰めして納品することにした。

検品表
ピースや額などそれぞれの場所を検品して合否(×印)を記入する

完成日	検査日	修正日	再検日	製作者	検査者	修正者	再検者
年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日				

No.	合否	再検	No.	合否	再検
1	○		1	○	
2	○		2	○	
3	○		3	○	
4	○		4	○	
5	○		5	○	
6	○		6	○	
7	○		7	○	
8	○		8	○	
9	○		9	○	
10	○		10	○	

不合格は修正して再検品

(課題2) パズル枠(額縁)の接合不良

パズルの枠は丸鋸盤で斜めにカットして板に貼り付けると材料の幅の違い等が原因で、隙間無く繋げることができないという不具合が出ていた。調べてみると、額縁のカットの方法を詳しく説明されている動画があり、治具を使ってうまく繋げることができるとわかった。実際に写真のような治具を製作し、幅を揃えた長い材料と短い材料をセットでカットすることできれいな接合面ができた。



額縁を底板に貼り付けると縁にずれが出る



写真のような治具を製作材の組み合わせを工夫

(4) 木育への活用

私たちの活動を多くの方に知ってもらい、林業や木材の活用の大切さや木の良さを知ってもらうために、「好きっ！通潤パズル」を活用した木育活動を行った。

(木育1) 環境に関するイベントへの出展

木工教室では、「かどっこ♡のくまモン」の製作体験を行い、ストラップにして体験した方に持ち帰ってもらった。また、通潤パズルの体験コーナーを設置し気を使った製品の良さを感じてもらおう体験してもらった。木工教室の前には林業科学科の紹介なども行い、林業の大切さや地球温暖化への対応などの紹介も行った。



木工教室

(木育2) パズル大会の開催

福祉と木育のコラボができないかと考え、「好きっ！通潤パズル」を使ったパズル大会を行うことにした。町の福祉まつり実行委員会のご厚意により、令和4年度は福祉まつりの中で、パズル大会を開催した。大会には、小学生から80代の高齢者まで40人の参加があり、4組に分かれて5分間で何問解けたかを競った。一般の部の2組目では85歳の最高齢参加者が1位になった。この方は、施設で毎日「好きっ！通潤パズル」に取り組んでいただいているということで、私たちのパズルの効果を実感することができた。



第2回パズル大会

令和5年度は本校文化祭の中で第2回パズル大会を開催した。事前に募集した10人に加え、文化祭に来場した30人、併せて40人が参加した。今回は中・高校生や子育て世代の方の参加が多く、幅広い年代の方々に私たちのパズルをPRすることができた。

(5) 福祉を学ぶ高校生との連携 (県立学校OneTeamプロジェクト)

木材を使った福祉用具などを製作する中で、熊本県内で福祉を学習している高校生と協力して何か新しいことができないかという意見があり、上天草高校福祉科と連携することになった。

令和4年度は、上天草市立中南小学校の特別支援学級の児童向けのポッチャランプ(勾配具)を製作し、県人権フェスティバルのポッチャ体験コーナーで来場者に披露すると共に、ポッチャ協会の先生からアドバイスをいただいた。

完成したポッチャランプを上天草高校を通じて小学校に寄贈していただいた。通常学級の同級生と一緒にポッチャを楽しむのに適したもので、大変喜んでいただいた。令和5年度には、県教育委員会特別支援教育課指導主事の先生から特別支援学校でポッチャに取り組んでいるところがあり、連携してはどうかと提案があり、松橋支援学校と松橋東支援学校とのポッチャによる交流を行うことになった。

実際の活動はこれからで、12月4日には松橋支援学校の高等部の生徒さん達と一緒にポッチャ大会を開催する計画である。また、12月20日には松橋東支援学校小学部の児童の皆さんとポッチャ大会を行う際に、新しいポッチャランプを活用していただくことにしている。



ランプ製作

角度調節が可能



県人権フェスティバルポッチャコーナー



4 まとめ

木材を活用したものづくりで地域や他校生とつながることができ、認知症予防パズルやポッチャランプなどの人のためになる製品を開発することができた。また、パズル大会を開催し木材製品の良さを伝え、林業科学科の取り組みを紹介することで、林業に目を向けてもらえるきっかけを作ることができた。

林業技術を福祉分野で生かす林福連携の取り組みは、様々な人たちの協力のおかげで支援学校との取り組みにまで発展した。今後も林業のちからを生かして福祉分野に貢献し、山都町の活性化につながっていくような取り組みにしていきたいと考えている。